



ふるさとアドバイザー 故郷への思いを語る



NHK チーフ・プロデューサー

岩本 裕 さん

(昭和 40 年上分町生まれ、東京都在住)

【主な経歴】

昭和 63 年 早稲田大学卒業

NHK 入局

平成 21 年 「週刊子どもニュース」 3 代目

お父さん

平成 27 年 「NHK ジャーナル」 キャスター

NHK に入ってから 30 年。東京と大阪を中心に、医療専門の記者として、またキャスターとして NHK スペシャルやクローズアップ現代などの番組を作ってきました。週刊子どもニュースや、現在担当している NHK ジャーナル (ラジオ第一で平日 22 時から放送) では、政治・経済・社会・国際のあらゆる分野から取り上げるニュースを選び、わかりやすく解説する原稿を練り上げて、自ら視聴者やリスナーにお伝えしています。

その原点は、四国中央市で得られました。あまり大きな声では言えませんが、立ち読みなんです。上分町生まれの私は、自転車で川之江町や金生町に行って、書店で何時間も立ち読みしていました。もちろん本も買っていたのですが、それだけでは足りず、立ち読みが大きな趣味の一つと言っていい状態でした。考えれば、迷惑この上ない子どもで、立ち読みを許してくれていた書店の方々にお詫びのしようもありません。でも、広い心で許容していただいたお陰で、今、ラジオでしゃべっているトリビアの種をたくさん仕入れることができたのも事実です。この場を借りて、心から感謝申し上げます。

私は松山の高校に転校するまで、ほとんどを四国中央市で過ごしました。釣りが趣味で、金生川でオイカワやフナを、ため池でコイやザリガニを、そして、川之江港でサバやチヌを釣っていました。大物を釣り上げた時や浅瀬でガザミが獲れた時の興奮は本当に得難いものがありました。

そしてもう一つ、ふるさとの思い出というと、頭に浮かぶのが祭りです。太鼓台の勇壮な音。中学校で、太鼓をたたかせてもらったとき、何となく大人になったような高揚感を得たことが心に深く刻み込まれています。

こうして考えると、私の人間性を培ってくれたのは、やはりふるさとだったと思います。あの頃の経験が、世の中をどう捉え、どう変えていけばいいのか、そのために、どんなニュースを、どう伝えていくのかの指針になっています。育ててくれた四国中央市に感謝を込め、一層のご発展を祈っています。

こうして考えると、私の人間性を培ってくれたのは、やはりふるさとだったと思います。あの頃の経験が、世の中をどう捉え、どう変えていけばいいのか、そのために、どんなニュースを、どう伝えていくのかの指針になっています。育ててくれた四国中央市に感謝を込め、一層のご発展を祈っています。

愛媛県ほっかほっか会が絵本・図鑑などを寄贈



12月18日(火)、子どもたちの読書活動推進のため、弁当販売のチェーン店「ほっかほっか亭」の県内オーナーで構成される愛媛県ほっかほっか会(荒井康成会長)から、三島小学校に絵本や図鑑など合計100冊が寄贈されました。

株式会社かがやき総合保険企画が車椅子を寄贈



12月25日(火)、株式会社かがやき総合保険企画(中泉輝彦代表取締役 CEO)から、車椅子20台が寄贈されました。車椅子は市社会福祉協議会、地域振興課、基幹相談支援センターのほか、市内の企業や施設などで利用されます。

宇摩法人会が絵本・紙芝居を寄贈



1月11日(金)、宇摩法人会(石崎康文会長)から、絵本187冊と紙芝居65巻が寄贈されました。今回贈られた絵本と紙芝居は、市内の幼稚園、保育園及び認定子ども園11施設で子どもたちの健やかな成長のために役立てられます。

第27回伊予三島秋祭りフォトコンテスト結果!

市内外から応募のあった約300点の中から、29点が優秀作品に選ばれました。来年度も多数の応募をお待ちしています。



最優秀賞  
「それ行くぞー」  
森實好彦さん



秋祭実行委員会会長賞  
「本殿前」  
大西祐子さん

